

会報 こぶし

北陸電波学校
北陸電波専門学校
北陸電波高等学校
金沢工業大学附属高等学校
金沢工業高等専門学校
国際高等専門学校
金沢工業大学

VOL.

69

2022.1



KITリカレント教育 人生のステップアップを支援

令和3(2021)年度こぶし会全国支部代表者会議
新しい同窓会のあり方検討

北信越と関東に
地区支部長会議を新設



センサーの値を測定するプログラミングでロボットの制御手法学ぶ受講生



人生のステップアップを支援

KITリカレント教育

社会の変革が急速に進む中、社会で働く人たちの情報や知識は、常に更新していく必要があります。金沢工業大学では、そのような社会人の学び直しの機会（リカレント教育）を提供し、人生のキャリアアップを後押ししています。

生涯かけて学ぶ

「リカレント(recurrent)」とは、「繰り返す」「循環する」という意味があります。リカレント教育とは、学校を卒業し社会に出た後も、それぞれの人が都合のいいタイミングで再び教育を受けることです。日本では、仕事をしながら学び直すスタイルもあり、社会人が専門的な知識やスキルを学ぶことから「社会人の学び直し」とも呼ばれます。

グローバル化が進み、社会の変革のスピードが加速する現代では、知識や情報のアップデートは欠かせず、キャリアアップ、キャリアチェンジしていく上でも、学び直しが重要度を増しています。



コロナ禍前は対面での講義が行われ、受講生同士が活発に議論しました

KITリカレント教育の特徴

学園は、卒業生の生涯学習をバックアップするため、常に学びの門戸を開いています。社会の変化に対応した学びの場を提供し、社会生活の充実を目的とした支援を目指しています。卒業後も学園の取り組むリカレント教育などでスキルアップを図り、学生・教員とのネットワークづくりにぜひご活用ください。



5つのポイント

01 短期集中・短時間でも大学で学習が可能

会社の業務から離れる時間を必要最小限にとどめることが可能。

04 オンライン授業なので移動の必要がない

移動時間を気にせず、会社から受講でき、勤務中でも可能。

02 学生や異業種企業の社員と共に受講

気づき、多様な価値観からイノベーションの創出へとつなげる。

05 受講するための費用が安い

1科目(100分×7回)は24,000円～。条件付きで無料のプログラムもあり。(募集要項でご確認ください)

03 教員に相談しやすい環境が整う

学習内容のほか、共同研究や企業の課題についての相談も可能。



教員からきめ細かなサポートが受けられます



IoTを理解する上で欠かせない基礎知識から学べます

KITで実施されているリカレント教育の体系図

金沢工業大学のリカレント教育は、新たな社会「Society5.0」の実現に向けて、企業ニーズに対応した大学教育による知識の習得に加え、学生・教員とのネットワークづくりと習得した知識を活用した研究・開発による企業や卒業生の成長をサポートします。



法人・企業・団体向け

プログラム①

情報技術教育

履修証明プログラム

新たな社会「Society 5.0」では、あらゆる「モノ」や「コト」がデジタルで表現されます。AIやIoTなどの新しい情報技術が進展し、その結果、あらゆる業種や分野は大きく変容するでしょう。このような時代においては、最新技術を身に付けていなければ、新しい価値を創出することはできません。この講義は、社会人が学生や教員とともに学び合いながら、AIやIoTといった先進情報技術を学習できる教育プログラムです。講座の修了の証として履修証明書も発行しています。

プログラム③

社会人共学者

「社会人共学者」とは、社会で活躍している社会人の方が授業に参加し、学生たちに実際の社会の状況や企業での課題等の話題を提供したり、学生と討議し世代を超えた多様な価値観や考え方の理解の支援を行う取り組みで、学生と交流しながら、知識を習得することができます。

プログラム②

組織活性化と倫理

現代のビジネスは、「顧客満足度」だけでなく「従業員満足度」が大きなウェイトを占めます。従業員が働きたくなる風通しのいい職場環境をいかに構築するかが問われており、心身の健康やコミュニケーションなど課題の解決がカギとなります。先進国では、ポジティブ心理学による組織活性化できるリーダーシップ、従業員の幸福度を向上させる職場環境を模索しています。この講義では、ポジティブ心理学の応用となる組織活性化を取り上げます。

プログラム④

金属熱処理基礎教育

履修証明プログラム

金属材料の加工に必要な熱処理の基礎を学ぶ講座です。金属材料・熱処理を初めて学ぶ方を対象に、金属熱処理に係る工業・力学・設計・製図の基礎について、理論・実験・演習・発表を組み合わせる学びます。約120時間の講座の修了の証として、履修証明書も発行しています。

履修証明プログラム

「履修証明プログラム」とは、学校教育法に基づくものであり、大学が社会貢献をより積極的に促進するため、社会人等を対象にした体系的な知識・技術等の習得やキャリアアップの機会を提供する学習プログラムを特別課程として開設したものです。

個人向け

イノベーションマネジメント専攻（東京虎ノ門）

MBA人材・知的財産マネジメント人材を養成する1年制の社会人大学院です。「ビジネスマネジメント領域」「メディア&エンタテインメント領域」「知的財産マネジメント領域」の3つの研究領域があります。在学期間は1年間で、30単位以上の修得^{*}が修了要件となっています。

^{*}弁理士試験短答式一部免除を申請する場合は、所定科目(28単位)を含めて36単位以上の修得が必要となります。

プロフェッショナルミーティング

虎ノ門キャンパスで定期的開催している無料セミナーです。グローバルに活躍する経営者、ワーカー、教育者、アスリートなどが、多様な視点からビジネスの展開、活躍の裏側について語ります。一流の考えを聞くことで一流に近づくことを目的としています。

科目等履修生

イノベーションマネジメント専攻の授業を1科目から学べる制度です。経営戦略、リーダーシップ、ビジネス法務などの講義があります。年間12単位まで受講でき、進学した場合に、修得した単位のすべてまたは一部を修了要件にみなすことができます。

原著から本質を学ぶ科学技術講座

科学的発見や技術的発明が最初に発表された約2,000点の初版本をライブラリーセンターの「工学の曙文庫」に所蔵しています。このプログラムでは、世界を一変させた発見や科学技術に関する内容を金沢工業大学の教員が読み解き、解説していきます。

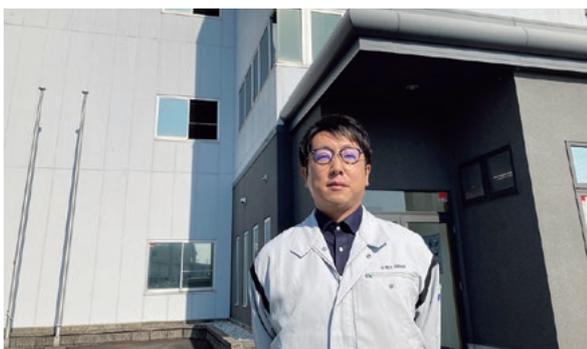
受講者の声

さまざまな社会人の学びがあるKITリカレント教育。受講した卒業生の方に、役立った点など感想を取材しました。

CASE
01

受講プログラム 組織活性化と倫理

松生 恭典 さん (大学・物質応用・平成13年卒)



前向きな言葉の力

90%を占める契約社員ワーカーさんのモチベーションやコミュニケーション力の改善のヒントを得たいと受講を決めました。

講義を聞いていて感じたのは、自分が変わらなければ、周りの人も変えられないということでした。講義では毎回、最初に「ポジティブだと思うことを3つ挙げてください」と問われます。「昨日、妻にありがとうと言えた」など内容は何でもいいのですが、前向きな言葉の力に気づきました。

プラス思考の言葉は人を笑顔にし、職場を和やかな雰囲気に変えることができます。すぐに結果は出ないと思いますが、継続していくつもりです。

久しぶりに母校の講義を受け、学生に戻ったような不思議な気持ちです。オンラインでしたので移動時間がなく、受講しやすかったです。ただ、キャンパスを訪れたかったという気持ちもあります。虎ノ門キャンパスのMBAの講義の入門編があるといいですね。

CASE
02

受講プログラム 情報技術教育

定池 真希 さん (大学・ロボティクス・平成31年卒)



可能性を広げる一歩

勤務する株式会社成宏電機(石川県小松市)の夏梅大輔社長(大学院・電気電子・平成11年卒)の指示で、スキルアップを目的として、同僚の杉山敬晃さん(大学・メディア情報・平成27年卒)と受講しました。講義では、機械学習やAIを学び、その知識を業務で生かすことを想定しながらメモを取りました。これまでの業務の中で、統計解析を行うことがありましたが、いくつかの手法があることを知り、データ活用の改善につながると考えています。

同僚との参加は、講義内容や課題を相談できる点で学習効果が高く、複数人の参加はメリットがあると思います。オンラインでの講義は初めてでしたが、移動時間がなくなるのが助かります。

こうやって卒業後に学ぶのは、とても新鮮です。そして、学ぶ必要性を強く感じました。今できる仕事に一つずつスキルアップを図ることで、可能性が広がっていくのだと思います。



IoT 応用の講義でプログラムしたシステムの動作をプレゼンテーションをしました



これからの基本的な知識となる AI の基礎を学びました



既存のカードよりも性能が高いラインカードデバイスについて受講生(社会人)が説明しました

CASE
03受講プログラム
情報技術教育

亀本 朗弘 さん (大学院・情報・平成 24 年卒)



受講が学びの起点に

ステンレスパイプ製造会社で品質管理を行っており、不良品数を集計して改善へとつながる情報をまとめる業務に従事しています。このような情報を機械学習やAIで処理するのが効率的だと考え、受講を決めました。

実は、学生時代にAIを勉強しようとしたのですが、とても難しく断念した苦い経験があります。しかし、今回の講義は入門編のような内容でしたので、今後の勉強の進め方のヒントを得ました。受講後に相談できる窓口があるといいですね。

一緒に学んでいた学生のレベルの高さには驚きました。独自の視点で物事を考え、新しい発想を生み出す力は、飛躍的に伸びています。

情報系の知識は日々、進歩を続けています。遅れていく知識をアップデートする必要があり、今回の受講を学びの起点にして、自分自身を変えていきたいと思っています。

CASE
04受講プログラム
社会人共学者

倉元 昭彦 さん (大学・経営・昭和 55 年卒)



大学でもう一度学生に

社員の心と体の健康が一番大切だと気づき、社内の仕組みづくりに取り組んでいます。社員に対してメンタル面でアドバイスする機会があり、キャリアコンサルタントの資格を取得しました。まだまだ知識が不足していると思い、心理学について学び直そうと考えたのが受講の理由です。

講義を受けてみて感じたのは、自分の考えに凝り固まっていたということです。周囲の人たちの意見を幅広く受け入れ、柔軟に対処しなければ求める結果は得られないと気付かされました。

受講には、もう一つ目的があります。学生に自分の経験を伝えることです。とかく学生は会社に就職することがゴールになりがちです。そうではなく仕事をするために「就職」するので。仕事の中で楽しさを見つけてほしいですね。この歳になって心理学を学ぶとは思ってもいませんでした。大学に入り直したつもりで学ぶことを楽しみます。

大学からのメッセージ
卒業生の未来をサポート大学事務局共創教育推進室
課長 西川 紀子 さん

現代社会は加速度的に技術革新が進んでおり、日々、情報を更新していかなければ、世界の動きについていけない状況にあります。金沢工業大学では、企業の競争力を高めるため、社員教育への支援に力を注いでいます。専門分野の基礎を中心とした講座を充実させることで、知識の底上げを図り、分野を超えたプロジェクトに対応できる人材育成に貢献できるものと考えています。

これまでに、製造や金融、IT関連など、延べ100社の企業が利用しています。講義には現役学生と異業種の企業が参加しますので、知識以外にも得られる経験があります。今後は、法人・企業・団体向けのプログラムでも、卒業生には気軽に受講できるようにしたいと考えています。

ぜひ、自らのキャリアアップとステップアップにご活用ください。

■ リカレント教育に関する問い合わせ

金沢工業大学 大学事務局 共創教育推進室

TEL.076-294-6743 Eメール.recurrent@mlist.kanazawa-it.ac.jp (代表)

KITリカレント教育ウェブサイト



積み木会

建築学科・居住環境学科・建築都市デザイン学科・建築デザイン学科

新会長に岡島康博氏 (大学・建築・平成8年卒)

積み木会総会、建築研修会を開催

令和3(2021)年度積み木会総会は金沢市の金沢港クルーズターミナルで開かれ、建築学科主任の永野紳一郎教授や会員19人が出席し、新会長に岡島康博氏を選出しました。

総会では、若手幹事の積極的な登

用、ネットワークの整備、建築研修会の充実、オンラインの活用など新しい活動のあり方を検討していく方針が示されたほか、卒業生や在学生との交流を促進しながら手厚い支援を実施することを目標に掲げました。



設計の苦勞を解説した寺田さん



総会、建築研修会に参加した皆さん

総会後には、建築研修会を開催し、金沢港クルーズターミナルの建物設計を担当した(株)浦建築研究所の寺田千恵氏(大学・建築・平成8年卒)が「新たな賑わいの拠点施設

金沢港クルーズターミナル」をテーマに講演し、「ターミナル機能の確保と交流拠点の創出」の両立という難題解決に奮闘したことを解説しました。

コロナ禍での建築研修会ということで、建物見学は一般利用者に配慮して講演終了後に個別に見学しました。事前準備・打ち合わせを重ね、感染予防対策を講じることで、無事に総会と建築研修会を終えることができました。

経工会

経営工学科・経営情報工学科・情報マネジメント学科・情報経営学科・経営情報学科

徳永雄一教授が講演

第38回冬の異業種交流会

第38回冬の異業種交流会を令和4(2022)年1月22日、オンラインと対面のハイブリッド形式で開催します。主となる会場はオンライン(Zoom)となります。講師には、金沢工大経営情報フロンティア学部徳永雄一教授を招き、「IoTに関する研究内容紹介」をテーマに講演する予定です。

異業種交流会には
こぶし会会員ならどなたでもご参加できます!

- 日時 令和4(2022)年1月22日(土)
13:00~受付、13:30~講演
- 場所 経工会ウェブサイトでお知らせします。
- 会費 無料

お申し込み：前日までに経工会ウェブサイト、および、こぶし会ウェブサイト参加フォームよりお申し込みください。

高専祭・工大祭

コロナに負けずに開催

国際高専は令和3(2021)年10月16日、金沢工業大学は10月16・17日に、それぞれ学園祭を開催しました。高専祭はオンラインで実施し、野中正樹金沢国際高専同窓会長(高専・機械・昭和49年卒)が挨拶しました。工大祭は、一般客の入場を制限して実施し、室内企画の中でもダンスなどが人気でした。



大学同窓会が参加学生を 栄養ドリンクで応援!

100km歩行 ~40kmチャレンジ~

新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から学生・教職員のみでの開催となった2021年度の工大祭。恒例の100km歩行は、扇が丘キャンパスから白山麓キャンパスまでの40kmに変更しました。

第1休憩地点の白山郷運動公園では、大学同窓会の殿村和也会長(大学・土木・昭和57年卒)から参加学生に栄養ドリンク100本が贈呈されました。



PLUS
学園

5,530人が9月末までに接種

ワクチン接種を実施

金沢工科大学園では、コロナ禍において学生の対面授業を再開するにあたり、学生、教職員に対して令和3(2021)年6月30日からワクチン接種を開始し、9月29日までに終わりました。

職域接種の医療従事者として、金沢医科大学病院、一般財団法人石川県予防医学協会が協力し、株式会社学侑社や株式会社セーフティ、株式会社太陽テント北陸など、本学のパートナー企業がタッグを組みました。金沢工科大学園同窓会こぶし会は、財政的な面で支援しました。

石川県内の高等教育機関ではトップを切り、6月30日からワクチン接種を開始しました。毎週水曜日と土曜日を接種日とし、学部生・院生・高専生・教職員のうち、5,530人が2回の接種を完了しました。

大澤敏学長は「安全安心な学生生活につながる職域接種に期待しています」と述べ、接種を受けた学生は「イン



ワクチン接種をする学生の皆さん

ターンシップなどに参加する時には、県外に行くことが多く、接種したことに安心感があります」と話しました。

職域接種へのご支援のお礼

金沢工科大学園同窓会こぶし会におきましては、昨年度、新型コロナウイルス感染症で経済的に困窮した学生に対する生活支援いただきました。今年度は、大学拠点接種(職域接種)でご支援を賜り、厚くお礼申し上げます。

新型コロナウイルスワクチンの職域接種は令和3(2021)年6月30日から開始し、9月29日までに終了しました。ほぼ毎週水曜日、土曜日に実施し、全19回で学生や教職員など合わせて11,070回(うち2回接種完了者5,530人)の接種が完了しました。約3か月を通してアナフィラキシーショック等の重篤な副反応は見られることなく接種を終えることができ、幸いでした。

今年度の前学期は、感染対策を実施した上で、対面授業と遠隔授業を組み合わせました。後学期は、学生へのワクチン接種が進んだことにより、安全安心な学生生活を送る環境が整いつつあります。今後も自由な学びの機会を確保できるよう、感染症の拡大防止を徹底します。こぶし会会員の皆さまには、引き続き温かいご協力と力強いご支援をお願い申し上げます。

学校法人金沢工業大学
理事長 泉屋 吉郎

PLUS
大学

顔認証決済で地域社会の活性化を

石川県白山市白峰地区で実証実験

金沢工業大学情報工学科の学生3人が、株式会社スマートホテルソリューションズ(東京都港区)と連携し、実証実験を行っています。

これは、白峰地区の地域住民とともに、テクノロジーと既存の文化を融合し、持続可能な里山地域を目指すことを目的とした産学連携による課外活動プログラムの一環です。

この取り組みでは、顔認証システムを使い、ホテル「白山苑」を拠点に周辺の観光施設や飲食店で顔認証決済を導入するものです。利用者は、白山苑でのチェックイン時に、顔写真とクレジットカード情報を登録することで、キャッシュレスで周辺の各

施設のサービスが受けられるようになります。利用代金はチェックアウト時にまとめて後払いになります。

令和3(2021)年8月21日に実証実験をスタートし、令和4(2022)

年2月ごろまで、白山苑を含む5施設で実験を続けます。実証実験は観光振興や地域活性化への効果の検証を目的としており、利用者の好みや購買傾向を分析して観光ニーズの把握に役立てる予定です。

この実証実験を行っている情報工学科4年の鈴木大志さん、布谷

和弥さん、福田一之さんは、令和2(2020)年から同社と協力し、観光振興・地域活性化を目的として、白峰地域に根ざしたアプリ開発などに携わってきました。



システムの打ち合わせをする学生の皆さん

SDGs の教材開発・販売会社を設立

大学院生 5人が起業

金沢工業大学大学院工学研究科修士課程ビジネスアーキテクト専攻2年の5人がSDGs（持続可能な開発目標）を学べる教材の開発と販売を行う株式会社「LODU（ロデュ）」を設立しました。企業に対するSDGsの研修・コンサルティング事業とともに、ゲーム的な要素や考え方をういた教材の企画・販売も行います。金沢工大での学生のみによる起業は初めてのケースとなります。

島田高行さん（社長）、鈴木健斗さん、青木啓人さん、亀田樹さん、蟹谷慧さんの5人は、これまで教育機関や企業、自治体向けのSDGsのワークショップの実施、KITSDGs推進センターと共同でカードゲームを開発した実績があります。社名のLODUは「LOVE」と「EDUCATE」の造語で、自分の「好き」や「楽しい」を育てる教育で社会課題を解決するという意味を込めました。

会社は、野々市市に拠点を置き、令和3（2021）年6月16日に設立しました。研修やコンサル事業を主力に3年後に売り上げ5,000万円を目指します。第1弾の教材は今年度中の

発売を予定しています。

8月24日の設立発表記者会見では、粟貴章野々市市長、大澤敏学長らが出席し、起業を祝いました。



（前列左から）平本督太郎准教授、島田さん、粟貴章野々市市長、大澤敏学長
（後列左から）鈴木さん、青木さん、亀田さん、蟹谷さん

のと鉄道の利用状況を調査

AIで乗降客をカウント



乗客用カウントシステムのカメラを設置する深山さん

国際高専グローバルイノベータプロジェクトは令和3（2021）年8月5日、国際理工学科4年の深山寧皇さんと勝又舜介さんが、のと鉄道七尾線の穴水駅に乗降客カウントシステム用のカメラ6台を設置しました。

のと鉄道では、例年、利用状況調査を対面で行ってきましたが、昨年度はコロナ禍の中で接触を伴う調査を行うことができませんでした。そこで、国際高専が得意とするAIを用いた人流調査の一環として工学技術を使った非接触での利用状況調査システムを構築し、地域への貢献を目指すことになったのです。

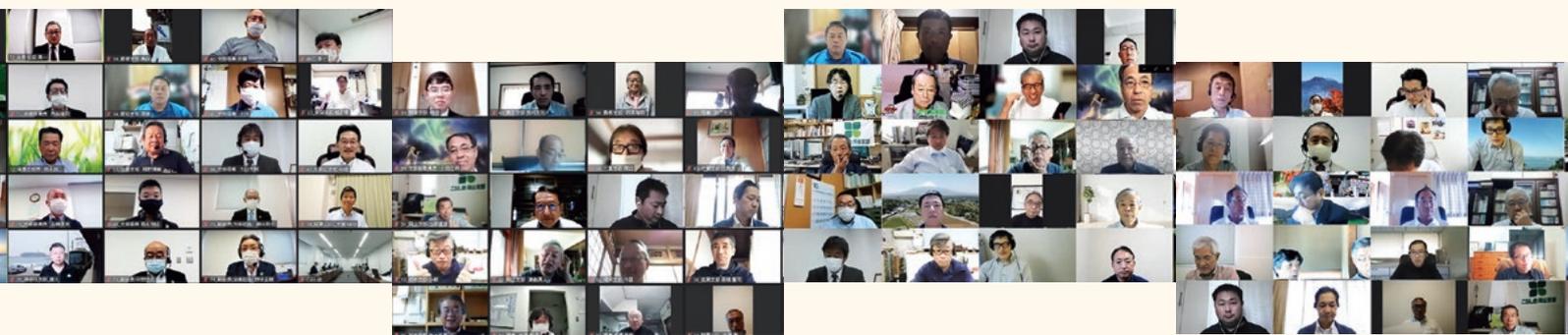
プロジェクトでは、撮影した画像か

らAIで乗降客をカウントする「エッジコンピューティングシステム」を構築し、夏休み期間の乗降客数の調査を行いました。今後、のと鉄道の各駅に同様のシステムを構築し、観光客の動線解析の結果をもとに、能登観光の提案を目指します。

のと鉄道と穴水町役場への今年度の報告は令和4（2022）年2月を予定しています。

なお、このプロジェクトは公益社団法人大学コンソーシアム石川の「2021年度地域課題研究ゼミナール支援事業」に選定された「コロナ禍におけるのと鉄道利用実態の把握」（地域課題発掘枠）として実施されます。

令和3(2021)年度こぶし会全国支部代表者会議



全国支部代表者会議に参加した皆さん

新しい同窓会のあり方を検討 オンラインと対面会議の併用促進

こぶし会全国支部代表者会議が令和3(2021)年10月17日、オンラインで開催され、こぶし会役員や全国の支部代表者ら95人が出席し、オンラインと対面を組み合わせた新しい同窓会活動のあり方を考えました。

オンライン会議では、松田真一会長(大学・情報・昭和50年卒)が「今年は北信越と関東で地区支部長会議を新たに開催し、地区ごとの意見を集約する場が整いました。来年は3年に1度の総会の年です。コロナ禍における同窓会活動のあり方を考えていきたいと思えます」と挨拶しました。また、泉屋吉郎理事長が学生支援への感謝の言葉を述べ、続いて学園の近況や共同研究、新たな産学協同のプラットフォーム「コーオペ教育」について紹介されました。

この後、古橋孝実さん(大学・建築・平成8年卒)を議長に選び、令和2(2020)年度事業報告と令和3(2021)年度事業計画が報告されました。理事会の報告では、「支部総会中止案内はがきを出したい」という要望に対し、岩手、山形、福井、岡山、愛

媛、福岡、鹿児島)の7支部が利用しました。こぶし会のウェブサイトにSNSのリンクが貼られていることを紹介しました。さらに、支部活動の助成金と補助金について説明があり、従来から認められている講演会の費用について説明されました。

殿村和也こぶし会副会長からは、石川支部の活動できる体制づくりをしていることが報告されました。次に、会議の実施スケジュールについて、支部総会(拯友会との同日開催推奨)、地区支部長会議(オンライン併用)、全国支部代表者会議(オンライン併用)の順に開催していく案が示されました。このような会議の流れを構築することで、全国の会員の要望を理事会で検討する体制を整えるとしています。



①「来年の総会は金沢で実施したい」と話す松田会長 ②「同窓会との連携をますます強めたい」と語る泉屋理事長 ③昨年に続いてオンラインでの実施となりましたが、スムーズに議事は進行しました

全国支部代表者会議とは？

こぶし会は77,000人を超える会員が所属する同窓会組織です。全国支部代表者会議は、47都道府県で活動する支部の代表者らが集まる会議です。各支部の特微的な活動を紹介したり、お互いに意見交換したりすることで、支部活動の活性化につながります。また、こぶし会全体の運営についても議論する場となっています。

令和3(2021)年度地区支部長会議



北信越と関東に新設 地区支部長会議

こぶし会の令和3(2021)年度地区支部長会議は、今年度から北信越地区と関東地区を新たに加えて7地区で開催されました。各支部が地区支部長会議で議論することで、会員の意見をより一層反映していきます。会議では、コロナ禍で活動が制限される中、各支部としてどのように対応していくかをオンラインで協議しました。

北信越地区

近隣支部との交流を促進

北信越地区は、新潟、富山、高岡、福井、長野の5支部と学園関係者15人が出席して9月18日に開催しました。

初めての会議であることから、各支部の活動全般などの報告がありました。山岸栄一新潟支部長は「県内を3地区に分けて支部総会を開催しているこぶし会には、会員の意見が反映されるような組織になってほしい」、吉井源治富山支部副支部長が「支部総会には近隣の支部からの出席があり、交流が広がっている。同窓会を忘れないようオンライン形式の企画を実施したい」、水上浩典高岡支部長は「案内はがきからSNSにリンクする工夫が課題となっている」、山口和治福井支部副支部長が「実家をこぶし会の連絡先に登録している会員を実際に居住している地区の各支部で受け入れる仕組みがあるといいのではないか」といった声が聞かれました。

古橋孝実支部委員長は「こぶし会ウェブサイトの各支部の紹介ページに支部長の顔写真とコメント、SNSのリンクをつけている支部もあるので活用してほしい」と提案しました。

関東地区

テーマを決めて集中議論を

関東地区は9月19日、茨城、栃木、群馬、埼玉、千葉、東京、神奈川、山梨の8支部と学園関係者14人が出席し、今後の地区運営について話し合いました。

初開催の関東地区会議では、橋本琢磨茨城支部長からは「少人数での会議は議論が深まるので歓迎したい」、中島洋一群馬支部長は「他の支部の活動内容を聞いて支部活動に生かしたい」、中村幸蔵千葉支部長は「関東4支部(埼玉、千葉、東京、神奈川)については、関東こぶし会の活動実績から、1支部とみなして活動したい」とし、出席者から同意が得られました。

また、菱川英海神奈川支部長は「毎回、テーマを決めることで集中して議論できるのではないか」、小林勝埼玉支部長が「関東こぶし会以外の活動を知る機会として捉えたい」、小柳雄一郎栃木支部会計は「母校を気にしている会員との交流を深めたい」、佐藤信二山梨支部副支部長からは「この会議で他の支部の活動を参考にして、新しい企画を考えたい」といった意見が聞かれました。

九州・沖縄地区

オンラインと対面の併用を

九州・沖縄地区は、福岡、佐賀、長崎、熊本、大分、宮崎、鹿児島、沖縄の8支部の代表者と学園関係者17人が出席して5月29日に開催しました。

会議では、各支部の活動報告がありました。大濱拓郎沖縄支部副支部長は「今後も在学生とのつながりを大切にしたいので、連絡先の提供をお願いしたい」、今里大平福岡支部長が「オンラインと対面とを併用した方がコミュニケーションを取りやすいのではないか」、江島良一佐賀支部長は「はがきや電話連絡、自宅訪問で会員を集めたい」、辻政信長崎支部長が「佐賀支部との連携を視野に入れながら、会員の拡充を考えたい」としました。また、耕英一熊本支部長は「案内はがきで得られた情報をもとにアクションを起こしたい」、清水禎治大分支部長が「案内はがきの返信で近況が書かれている会員に支部総会への声掛けをしたい」、崎本優宮崎支部長は「支部長の交代を検討している」、松下正行鹿児島支部副支部長が「案内はがきやアンケートを活動のきっかけにしたい」と話しました。

近畿地区

少人数での会合の開催を

近畿地区には、滋賀、京都、大阪、兵庫、奈良、和歌山の6支部と学園関係者17人が出席して7月10日に開かれ、これからの支部活動のあり方を議論しました。

各支部からは、コロナ禍で活動休止している中で、工夫している取り組みが報告されました。その中で、高橋賢司滋賀支部長からは「来年はメンバーと交流する機会を設けたい」、勝山茂樹京都支部長は「ゴルフの実施も考えたが開催できなかったので来年は検討したい」、岸本亮輔大阪支部長が「感染症の鎮静化を待って活動を再開したい」との意見が聞かれました。

また、黒瀬将一兵庫支部長は「今回の支部長会議の情報をメールで発信したい」、阪口龍平奈良支部長が「感染症の状況が改善すれば会合を持ちたい」、谷垣和伸和歌山支部長は「オンラインと並行して少人数での会合を開きたい」といった声もありました。

東海地区

他支部とオンライン総会を

東海地区では、4支部（岐阜、静岡、愛知、三重）の代表者と学園関係者14人が出席し、6月12日に開催しました。

各支部の活動報告では、波多野篤志岐阜支部長が「支部単位でオンライン交流ができないか試みた」、勝又宏幸静岡支部長は「今回届いた支部会員名簿は加工してあって使いやすい」、渡瀬正人愛知支部長が「オンラインで支部総会を実施するなら、他支部と合同でオンライン総会ができるか検討してほしい」、渡辺味三重支部長は「こぶし会活動の中止・延期の情報発信は、もっと細やかな対応ができないか検討してほしい」などの意見が聞かれました。

このほか、理事会から地区支部長に情報が共有されることで支部長の理解が深まり、「支部長間の小さなコミュニケーションが大きな力になるのではないか」との指摘がありました。

地区支部長会議 のエリア分け



東北・北海道地区

SNSなどの連携強化を

東北・北海道地区は9月4日、8支部（道東、札幌、青森、岩手、宮城、秋田、山形、福島）とこぶし会役員18人が出席して開催しました。

各支部から活動報告があり、國枝千秋道東支部長は「コロナ禍が収まった後に期待している」、菅原吉孝札幌支部長が「案内はがきでのお知らせが大切だと思っている」、伊勢陽一青森支部長からは「支部総会、ボウリング大会はコロナ禍後に開催したい」、佐々木考岩手支部

長は「交流のあった会員への案内はがきを通じて会員の情報を集めたい」としました。

また、斎藤孝一宮城支部長は「SNSなどを利用していいと考えている」、浅野喜秀秋田支部長が「案内はがきの返信があった会員にアプローチしたい」、遠藤秀樹山形支部副支部長からは「支部独自のウェブサイトの立ち上げたい」、坂本誠二福島支部長は「活動の再開を模索している」との意見もありました。

支部長からの便り Part.2

卒業生の皆さん、徐々に日常が戻っていますか。しばらく顔を合わせてない支部の会員に向けて各支部長からのメッセージを送ります。

支部長のコメントはこぶし会ウェブサイトにも掲載しています →



茨城支部

橋本 琢磨 (大学・電気・昭和 59 年卒)

今回の支部総会は、試験的に対面とウェブで実施し、会場に来られない会員も交流できるようにしたいと思います。会員数の多い日立・つくば地区での交流会開催も検討します。

群馬支部

中島 洋一 (大学・情報・昭和 63 年卒)

支部総会の案内はがきが届いたら、迷わず参加をお願いします。群馬県は中毛、東毛、西毛、北毛と大きく4ブロックに分かれており、多くの会員が参加できる仕掛けを考えます。

千葉支部

中村 幸蔵 (大学・電子・昭和 63 年卒)

令和4(2022)年度はオンラインを活用した月例会や対面とオンラインのハイブリッド同窓会の開催を計画しています。同窓会の連絡が届きましたら、ぜひ参加してください。

神奈川支部

菱川 英海 (大学・機械・平成 3 年卒)

徐々に活動が再開できており、時間や場所を選ばないウェブでのコミュニケーションも有効だと感じています。小さな輪を広げ、気軽に参加できる同窓会を目指しています。

栃木支部

菊池 清孝 (大学・土木・昭和 53 年卒)

この2年間は支部役員の間で協議を重ね、今できることは何かを模索してきました。コロナ収束後は、支部総会と懇親会を開き、会員相互の親睦を深めていきたいと思えます。

埼玉支部

小林 勝 (大学・経営・昭和 52 年卒)

母校を思う気持ち、後輩を思う気持ちが同窓会だと思います。継続がちからです。会員の皆さんには、同窓会活動というドアを開けていただき、積極的な参加を期待しています。

東京支部

飯田 宏幸 (高専・電気・昭和 61 年卒)

少しずつ会員の輪を広げてイベントを開催したいと考えています。同窓会活動は、人間関係を構築する上で勉強になりますので、若い世代ほど参加してほしいです。人生の困難に直面した時に助けてくれるような友を見つけてください。

山梨支部

佐藤 信二 (大学・土木・昭和 60 年卒)

令和4(2022)年度から新たに支部長となる佐藤です。不慣れですがご指導よろしくお願ひします。支部活動では、時間がない方も参加できるオンラインイベントを計画していますので、ぜひ参加してください。

こぶし会寄付者各位への 感謝の言葉

新年明けましてお目出とうございます。こぶし会会員の皆様には希望に満ちた新たなる年の幕開けをお迎えになられたことと拝察申し上げます。

扱、長年に亘って本学園が推進して参りました工学アカデミア計画の内、「特別奨学事業」「夢考房プロジェクト事業」並びに「その他教育研究の充実」の運営・発展に際しましては、貴重なるご寄付を戴き、衷心より感謝申し上げます。

この度は、ご支援を戴いた学生の内、代表して3名の学生の「感謝の言葉」をご紹介申し上げます。最初に、夢考房プロジェクト運営委員長として活躍している工学部・航空システム工学科3年の小舟昂希君からは、令和2（2020）年度の輝かしい成果として、ロボットプロジェクトのNHK主催「オンライン！学ロボFESTIVAL」3位入賞、組込ソフトウェアプロジェクトのチャンピオンシップ大会出場などが報告されました。また、情報フロンティア学部・心理科学科4年の仕平直子さんと国際高専・国際理工学科4年のタイ王国出身のプラチャム・イッサダーさんは、特別奨学事業を通じてのご支援もあり、勉学のみならず特別奨学生として培ったリーダーシップを発揮できる人材に成長することを目指しています。このようにご支援を戴いた学生諸君は、心からの感謝の言葉を寄付金募集の葉に述べています。

次に、令和2（2020）年度においては、新型コロナウイルスの蔓延の影響によって寄付金募集

のご依頼を差し控えておりましたが、令和3（2021）年度に入り募集を再開致しましたところ、全体で9月末時点において昨年度と比較し125件多い211件のご寄付を戴くことができました。その内、こぶし会員の皆様からは172名、176件であり、前年度と比較して139名、141件の増加となりました。

そこで、これらのご芳志にお応えすべくご寄付を戴いた方々を五十音順にご芳名を掲載させて戴き、茲に感謝の意を表したく思います。

寄付者名一覧

令和3年4月1日～9月30日（敬称略・五十音順）【大学同窓会】青山孝、阿部大介、阿部俊宏、安藤尚邦、石井雄太、石田公和、泉屋利明、伊藤康紘、稲干洋一、内田節、遠藤茂、大垣裕路、大島寛之、大島正敬、大西嘉範、奥野靖幸、烏谷伸、川本淳一、岸本久、北島清敬、北村和光、吉津邦弘、窪田健太郎、源野統夫、鴻巣研一、後藤守、小林邦夫、斉藤盛雄、坂野裕毅、阪本晃二、坂本誠二、佐々木寛治、佐々木康彦、佐藤英樹、塩谷四月、柴田浩伸、清水隆幸、菅原森彦、杉井辰吉、杉本章造、杉本栄三郎、鈴木秀雄、関恒男、多賀裕、橘守、田邊毅、谷口勝則、田村崇、辻祥宏、津田政明、土井勝憲、富樫秋平、殿村和也、内藤幹雄、中嶋登、中田孝幸、中村信一、西田恵一、西田浩一、西田真由美、西出博雄、新田一真、楡井功一、野口啓介、野村耕二、瀨本佑典、林駿佑、林里緒、原田康平、半田勇、東耕一郎、東



石川 憲一

特別奨学事業寄付金募集委員長
金沢工業大学名誉学長

寿博、東森大知、飛田憲一、樋田久則、百万光生、平本弘幸、福井将雄、福野長治、袋井信佳、藤下明人、藤田康仁、堀下一郎、前田正英、松浦正人、松田貞雄、松田真一、松本正裕、三浦雅博、水飼伸治、皆元孝則、宮坂智明、麦谷彰彦、村田稔、森田博喜、安原卓、山田昇、山田善彦、山本直司、山本良二、米沢真一、脇坂美樹雄、渡辺悦史 【高専同窓会】泉屋利吉、小中博之、塩谷善智、西田康夫、三浦貴博、宮川明光、宮下和則、立開実 【保二会】表義憲、坂本努、波能朋夫、本田寿夫、水野四郎、南茂治、宮丸勝二（全172名うち匿名54名）

尚、令和2（2020）年度の寄付者については、ご芳名を学園ホームページに掲載しています。

最後になりましたが、これからも「特別奨学事業」「夢考房プロジェクト事業」並びに「その他教育研究の充実」の更なる発展を目指して参りたく思いますので、こぶし会の皆様には何卒宜しくご理解とお力添えを賜りますようお願い申し上げます。そして、令和4（2022）年が皆様にとりまして輝かしい前進の歳となりますようにご祈念申し上げます。

会報こぶしとこぶし会ウェブサイトから出題

クイズの学園 VOL 20

好評いただいていたクイズをリニューアル。今号から出題形式が変わりました。会報こぶしとこぶし会ウェブサイト、それぞれクイズが出題されますので、応募するにはそれぞれの答えを書いてください。

第1問 会報こぶし(69号)からの出題

? KIT ●●●●●●●● 教育

誌面の中から当てはまる言葉を探してください。

第2問はこぶし会ウェブサイトに出題



■ 応募方法

同封しているインフォメーションカードに会報こぶしとこぶし会ウェブサイトに出題されたクイズの答え2つを記入してお送りください。正解者の中から抽選で10名の方に3,000円分の図書カードをお送りします。なお、当選者の発表は賞品の発送を持って代えさせていただきます。



■ 締切

令和4(2022)年
4月4日(月)当日必着

■ 発表

正解は令和4(2022)年4月8日(金)にこぶし会ウェブサイト上で発表します。

こぶし会

検索

鎮 魂 (敬称略)

下記の方々がお亡くなりになりました。心よりご冥福をお祈り申し上げます。

<特別会員>

平成31年 3月 大坪 昭 (元大学教授)
令和2年 1月 森 道直 (元大学教授)
8月 森田 外雄 (元特任講師・穴水湾自然学苑苑長)
令和3年 7月 磯崎 俊明 (元大学教授)
8月 伊能 忠敏 (元大学教授)
<正会員>
大貫 健太郎 (大学・建築・H26)
倉本 佳明 (大学・建築・S58)
小林 登 (高専・機械・S44)
中田 秀人 (保二会・電波高・S40)
兒玉 哲也 (修士・土木・H14)
平成30年 2月 田口 保治 (高専・電気・H元)
3月 鶴見 光男 (保二会・電波専・S36)

令和元年 7月 林 淳一 (大学・土木・S52)
近藤 篤 (大学・土木・H18)
12月 綿貫 徳栄 (大学・機械・S57)
令和2年 2月 杉本 直也 (高専・電気・S60)
4月 本森 雄二 (大学・情報・S56)
9月 安原 晴比古 (保二会・電波専・S38)
林 尚克 (保二会・電波・S33)
12月 田井中 健 (大学・経営・H6)
令和3年 2月 杉澤 秋男 (大学・電気・S48)
加藤 博久 (大学・土木・S53)
3月 桜井 学 (大学・建築・S56)
石立 繁広 (高専・電気・S52)

砂田 秀成 (高専・電気・S47)
4月 市川 正彦 (大学・情報・S57)
5月 鴨居 比佐志 (大学・電子・S51)
今井 敏博 (大学・建築・S52)
6月 石川 純一 (大学・電気・S49)
同村 清 (大学・機械・S48)

丹治 明 (修士・機械・S59)
8月 細貝 芳彰 (大学・情報・S56)
9月 若宮 聖一 (大学・電気・S46)
10月 乙田 朝人 (大学・機械・S47)
11月 細川 吉夫 (保二会・電波高専・S39)

福田 一郎 名誉教授 逝去



福田一郎名誉教授が令和3(2021)年7月13日、病気のため逝去されました。81歳。福田名誉教授は京都大学大学院理学研究科博士課程宇宙物理学専攻を修了後、昭和45(1970)年に本学講師に着任し、助教を経て平成5(1993)年に教授に昇任されました。専門は天体物理学。Web教材、ビデオ教材など教材作成にも熱心に取り組みました。その温厚な性格から多くの学生や卒業生、同僚から慕われました。福田先生の功德を偲び、衷心より哀悼の意を捧げます。

皆さんの声をお寄せください!

会報委員会では、「こんな特集が読みたい」など会員の方のご意見、ご要望を『会報こぶし』の制作に反映させていただきますので、事務局までお寄せください。また、連絡が取れなくなっていた卒業生の情報がわかりましたらお知らせください。

※インフォメーションカード、こぶし会ウェブサイトのお問い合わせ、こぶし会のE-mail等でお寄せください。

編集後記

◆「十年一昔」という四字熟語があります。現代社会の一昔は3年ほどでしょうか。今号ではKITリカレント教育を紹介しました。人生は一生勉強と言いますが、新しい情報と知識を吸収する機会を提供する社会人向けの講座は、その一翼を担うものだと思います。今後、講座の内容が充実し、進化していくことを期待します。面白そうな講座は、個人的には受けてみたいですね。

◆ところで、今年は3年に一度の総会の年です。この2年余り。コロナ禍で日常生活は一変しました。対面では会えない状況の中、オンラインによる会議が増え、新しいコミュニケーションの取り方が定着しています。対面とオンラインを併用することで、時間と場所を超えた交流が可能となりました。でも、やっぱり総会で皆さんと顔を合わせるのを楽しみにしています。/ 記T.N

次号予告

国際高専

学生たちの日常生活に密着

2018年にスタートした国際高専。1、2年は白山麓キャンパスでは全寮制で学び、3年はニュージーランドへの留学（現在はオンライン授業など）、4、5年は金沢キャンパスで、グローバルな人材育成を進める先進的な学習環境が整っています。会報こぶし70号では、社会で必要な人間力を育む日常生活を紹介するとともに、理工系リベラルアーツ教育の最前線に迫ります。



北陸電波学校・北陸電波専門学校・
北陸電波高等学校・金沢工業大学附属高等学校の卒業生の皆さまへ

「保二会のあゆみ（仮称）」を発行へ

保二会（北陸電波学校、北陸電波専門学校、北陸電波高等学校、金沢工業大学附属高等学校）では「保二会のあゆみ（仮称）」の発刊を企画しています。冊子の編集にあたり、当時のエピソードや思い出話を募集しておりますので、ぜひお寄せください。
また、いくつかの年度の卒業アルバムが不足しています。お持ちの方は、お貸出させていただきますようお願いいたします。

■不足している卒業アルバムの卒業年度

昭和 35・43・44・45・46 年度 ※ご連絡はこぶし会事務局まで

！ 団体・業者からの DM や 電話にご注意ください！

こぶし会では、団体・業者への名簿の提供および寄付や商売の斡旋は一切行っていません。もしも、自宅や勤務先などに業者等からダイレクトメール(DM)や電話があった場合には、金沢工業大学同窓会とは無関係ですのでご注意ください。

【金沢工業大学を卒業の皆様へ】各種証明書発行について

令和4年1月より、卒業証明書、修了証明書などの証明書がコンビニエンスストアでも受け取れるようになります。コンビニエンスストアでお受け取りになれる証明書、発行手数料、卒業年度などにつきましては条件がございます。詳細につきましては、本学ウェブサイトでご確認ください。

●卒業生の方への各種証明書発行に関するご案内
<https://www.kanazawa-it.ac.jp/shoumei/>



こぶし会を日本一の同窓会組織に！ 同窓会維持会費納入のご案内

こぶし会では、平成7（1995）年度より「同窓会維持会費」制度を導入し、**満40歳以上の会員に年額1,000円を納入していただいております。**77,000人を超える会員と各支部への活動支援、年2回の『会報こぶし』の発行など、同窓会活動の発展を図るために、ご理解とご協力をお願いします。対象となっている方には、払込取扱票を同封しています。

■会費の払込方法 郵便払込（3年分一括払い3,000円）
お近くの郵便局から同封の払込取扱票を利用して払い込んでください。住所等の訂正がございましたらインフォメーションカードにご記入の上ご返送ください。

対象者

- 保二会全会員
- 高専同窓会 令和4(2022)年3月末日で40歳以上の会員
- 大学同窓会 令和4(2022)年3月末日で40歳以上の会員

*会費の納入は80歳までとさせていただきます。
*平成30(2018)年度に3年分の同窓会維持会費の払い込みをされた方は、令和3(2021)年3月に期限が切れております。払込取扱票を同封させていただいた方はその該当者となりますので、払い込みくださいますようお願いいたします。



QRコードでウェブサイトをチェック!

こぶし会事務局
〒921-8501 石川県野々市市扇が丘7番1号 金沢工業大学内
TEL.076-294-6375 (直) FAX.076-294-0886
Eメール.kobushi@kanazawa-it.ac.jp URL.https://www.kobushi.jp